

資料⑤-2

次期計画の指標案 (素案 P47、50、53、56、58)

赤字:変更箇所

緑:新規

グレー:廃止

基本目標	施策の方向性	指標案		参考 達成状況				見直しの方向性	備考等
				策定時	目標	現状	未達の理由等		
脱炭素社会に向けたまちづくり①	(1)地球温暖化緩和策の推進	1-① 1-②	市域の電気使用量に対する、市域での再生可能エネルギー設備による発電電力量の割合	6.8% (平成30年度)	令和12(2030)年度 36~38% (年平均2.6%増)	8.1% (未達)	太陽光発電の導入件数と令和12年の国の目標数値の乖離	指標項目若しくは目標数値の見直し	太陽光パネルにのみ野洲市の再生可能エネルギー施設は依存しているため、国の目標数値より大きく乖離しているが、太陽光パネルの件数は年々増加しているため、目標項目を太陽光パネルの設置件数とし、目標数値を「増加」にすることはどうだろうか。
			(次期計画) 市内の太陽光パネルの設置件数	-	増加	-	-	新規	上記理由
		1-③	CO2排出量の削減(平成25(2013)年度比) ※平成25(2013)年度排出量:約480千t-CO2	約432千t-CO2 (平成29年度排出量)	令和12(2030)年度までに約259千t-CO2に削減 (平成25(2013)年度比46%削減) (年平均2.7%削減)	344千t-CO2 (達成)	-	継続	区域施策編を盛り込むにあたり、基本目標1の指標として継続する
		1-③	公共施設におけるCO2排出量の削減	7,169t-CO2 (平成28年度)	地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の目標値を準用(令和7年度5,734t-CO2)	5,191t-CO2 (達成)	-	継続	国・県の目標値を踏まえ目標値を見直し継続する
		1-③	コミュニティバス年間利用者数	52,718人/年 (平成27年度)	増加	66,252人 (達成)	-	継続	目標値は達成したものの、乗務員の不足及び利用者減少を踏まえ目標値を見直し継続する
	1-③	地球温暖化対策をテーマとした環境イベントや情報交換会実施回数	-	年1回以上	4回 (達成)	-	継続	区域施策編としての目標達成に向け更なる取組が必要となることから目標値を見直し継続する	
	(2)地球温暖化適応策の推進	2-①	熱中症に関する啓発実施有無	-	2回/年以上	-	-	新規	気候変動に関する指標を新たに追加 防災に対する取組の普及状況を把握するために設定するのはどうか。回数は健康推進課確認。
循環型社会に向けたまちづくり②	(3)資源循環の推進	3-④	1人あたりの一般廃棄物の排出量	738g/人・日 (平成27年度)	733.22g/人・日 (令和6年度)	699.2g/人・日 (達成)	-	継続	家庭で排出される紙類について、燃えるごみへの混入が一定量存在していること、エコアクションポイントとの連携などを踏まえ、さらなる減量に向け目標値を見直し継続する
		3-②	リユースステーション利用者数 (リユース物品無償譲渡会参加者数)	121人 (平成27年度)	維持	278人 (達成)	-	継続	R3からリユース品の常設を実施しており、利用者は微増。これを踏まえさらなる利用促進に向け目標値を見直し継続する
		3-③	市内で回収した廃食油のリサイクル率	100% (平成27年度)	100%	100% 3,555L (達成)	-	継続	今後リサイクルの推進が重要になることから「継続」とする
里山から琵琶湖へつながる自然共生まちづくり③	(5)生物多様性の保全	5-③	環境学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	53回・1,763人 (平成23~27年度の平均)	維持	7回・905人 (未達)	コロナを契機に参加者が伸び悩んでいるため	指標数値若しくは項目見直し	対象となるイベント回数が少子、高齢化で減少しているが、実施することに意味があるため、実施の有無を指標にしてはどうか。
			(次期計画) ピワマスの遡上確認	無	増加	-	-	新規	本市の生物多様性を代表するピワマスの生息状況を把握するために昨年対比で増加したかを目標値で設定するのはどうか。
	(7)地域資源の活用	6-① 7-①	里山学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	16回・511人 (平成23~27年度の平均)	維持	12回・388人 (未達)	コロナを契機に減少、回復傾向にある	指標数値若しくは項目見直し	対象となるイベント回数が少子、高齢化で減少しているが、実施することに意味があるため、実施の有無を指標にしてはどうか。
			(次期計画) ピワマスフォーラムとピワマスの産卵地造成活動の実施回数	-	維持	-	-	新規	民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を把握するために、毎年行っているか(維持)を目標に設定するのはどうか。
	(6)自然環境の保全	6-②	河岸・湖岸清掃活動実施回数、参加者数(のべ)	10回・213人 (平成23~27年度の平均)	維持	29回・310人 (達成)	-	継続	目標値は達成したものの参加者は横ばいであり、さらなる普及啓発に向けて目標値を見直し継続する
6-①		里山保全活動実施回数、参加者数(のべ)	29回・346人 (平成23~27年度の平均)	維持	48回・479人 (達成)	-	継続	目標は達成したものの、継続して活動に参加・担い手の育成につながるよう目標値を見直し継続する	

里山から琵琶湖へつながる自然共生まちづくり③	(6)自然環境の保全	6-③	環境こだわり農産物の栽培面積	997 ha (平成 27 年度)	維持	528ha (未達)	大豆が補助金対象外になったことなどから面積が減少	指標数値見直し	現状の把握方法では目標値の達成が難しいことから見直す必要があります。水稲の栽培面積は年 500ha で推移しているため、500ha で設定してはどうか。農林水産課確認。
			有機農業栽培面積	25 ha (平成 27 年度)	維持	25ha (達成)	-	継続	目標値は達成したものの担い手不足などにより減少することも想定されることから継続して目標の達成を維持する
		6-③	(次期計画) 環境に配慮した農業に関する啓発有無	-	有無	-	-	新規	環境保全型農業や農業におけるマイクロプラスチック対策など環境に配慮した農業に関する啓発状況を把握するために設定するのはどうか。
		6-③	(次期計画) スマート農業の実施有無	-	維持	-	-	新規	農地の保全に向けた新たな手法として、ロボット、AI、IoT 等の先端技術を活用したスマート農業の実施状況を把握するために設定するのはどうか。
安全で快適な生活環境づくり④	(8)公害や騒音等防止	8-①	大気汚染に係る環境基準の達成状況	環境基準達成	維持	維持 (達成)	-	継続	安全・安心のために遵守すべき項目であり、今後も継続して把握が重要であることから「継続」とする
		8-①	公共用水域の水質汚濁に係る環境基準の達成状況	環境基準達成	維持	維持 (達成)	-	継続	同上
			環境保全協定締結事業所数	91%(107 件)	100%	95% 106/111 社 (未達)	未加入事業所に対し協定締結を促したものの締結に至らなかったため	廃止	対象企業数が頭打ちであり今後増える見込みがないこと、また、未締結事業所の締結が難しいことから、廃止とする
		8-①	典型 7 公害に係る公害苦情の件数	44 件 (平成 23~27 年度の平均)	減少	27 件 (達成)	-	継続	市・事業者の生活環境に関する取組成果を把握するための指標として重要であることから目標値を見直し継続する
	(9)環境美化	9-①	ごみの不法投棄件数	214 件 (平成 23~27 年度の平均)	減少	267件 (未達)	発見による件数であるため	指標項目見直し	令和 5 年で監視員による件数は終わり、現在クリーンパトロールによる件数に変わったが、発見による件数で実情と異なる可能性があるため見直し(廃止にするか)必要があり
			(次期計画) 不法投棄に関する啓発回数(または実施有無)	-	有無	-	-	新規	不法投棄対策の実施状況を把握するために上記に変わる代替案として、設定するのはどうか。
	(10)まちなかの緑化	10-①	市民一人当たりの都市公園面積	8.07 m <sup>2</sup> (平成 27 年度)	野洲市総合計画の目標値を準用 (令和7年度 8.5 m <sup>2</sup> )	8.25 m <sup>2</sup> (未達)	3000 m <sup>2</sup> 以上の開発がなく、公園配置の数値が伸び悩んだため	廃止	今後到達する少子高齢化を見据え、面積を増やすのではなく、需要に合った緑の充実が必要となるため見直す必要がある
			(次期計画) 苗木の配布実施有無	-	有無	-	-	新規	上記の代替案として、地域の緑化につながる活動の状況を把握するために設定するのはどうか。
		10-②	河辺林(※)保全活動実施回数・参加者数(のべ)	33 回・404 人 (平成 23~27 年度の平均)	維持	35 回・572 人 (達成)	-	継続	県立高等専門学校との連携や MIZUBE ステーション構想との整合など今後も増加が見込まれることから目標値を見直し継続する
	協働によるまちづくり⑤	(11)環境保全を担う人材の育成	11-①	出前講座等(省エネ・リサイクル関連)実施回数、参加者数(のべ)	17 回・642 人 (平成 23~27 年度の平均)	継続	3回・78 人 (未達)	周知は行っているものの 3回に留まった	継続
11-②			クリーンセンターの市民活動拠点における市民活動等実施回数	-	年 1 回以上	1回(環境フェスタ) (達成)	-	継続	環境フェスタによる啓発を行っており、継続して目標の達成を維持する
11-③			HP情報発信数 (SNSを活用した情報発信も行う)	-	月 1 回	54回 (達成)	-	継続	目標を大きく上回っており、目標値を見直し継続する